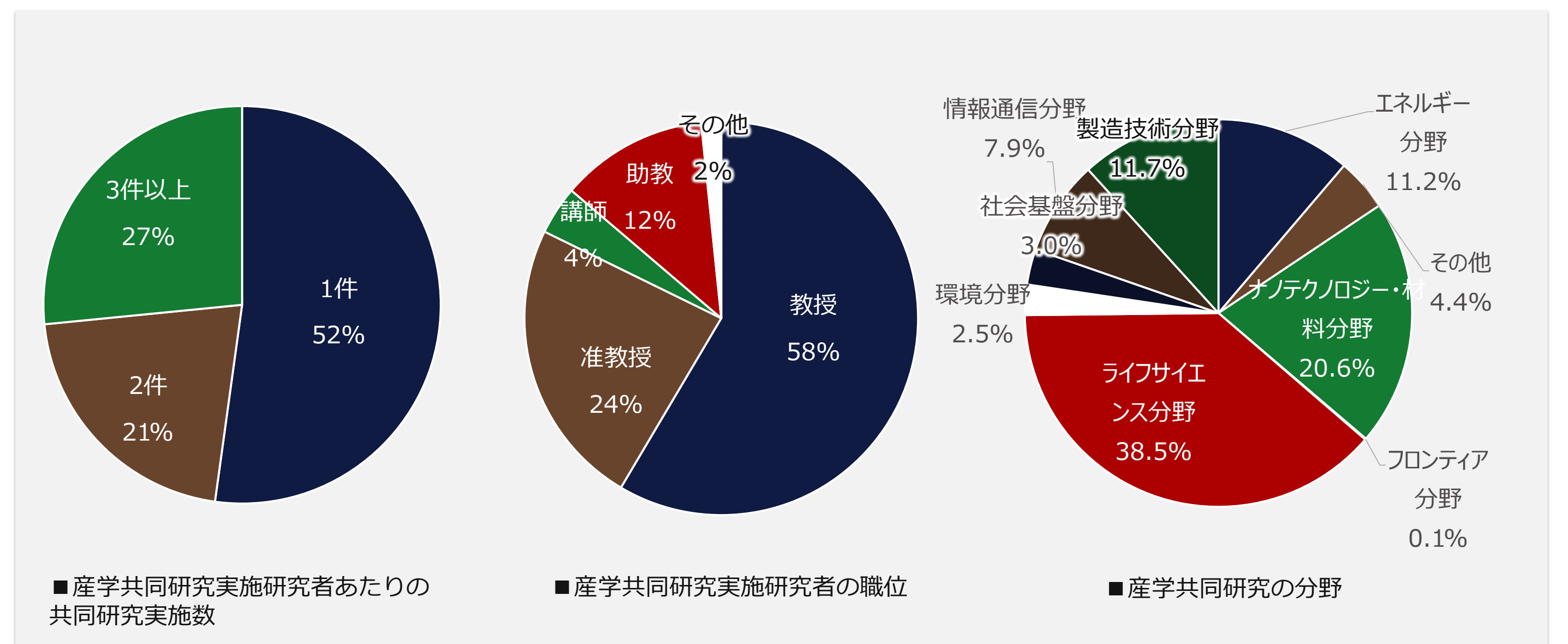
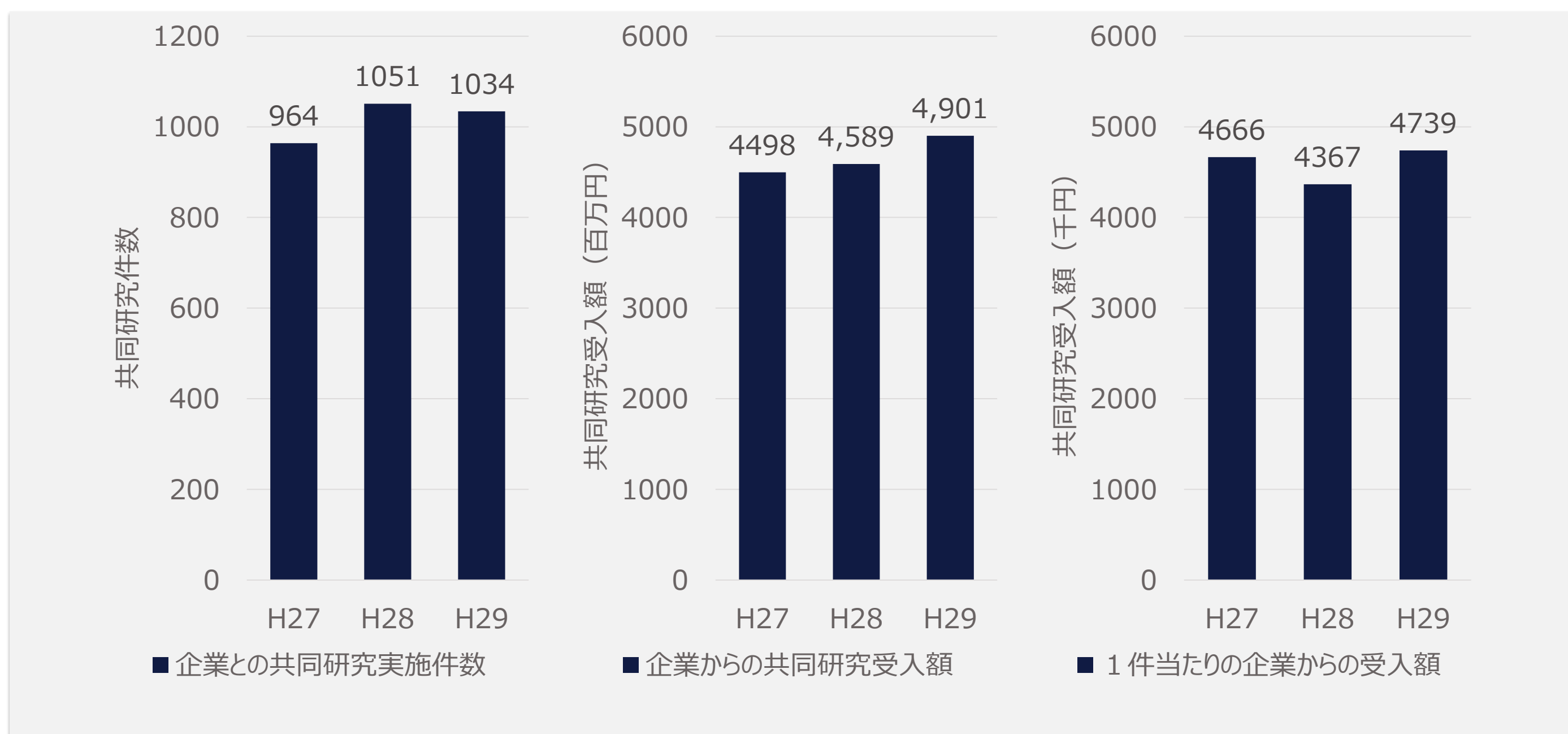


オープンイノベーション創発の京大モデルの構築

伊藤 健雄、加賀田 博司、池田 郁子、笠原 のりこ
(京都大学 学術研究支援室)

京都大学では、産官学連携本部、「医学領域」産学連携推進機構（KUMBL）、出資子会社（京大オリジナル株式会社、京都大学イノベーションキャピタル株式会社、関西ティール・エル・オー株式会社）が協力して産官学連携を推進しており、URA組織である学術研究支援室（KURA）は、産学連携等の競争的外部資金獲得支援を行うとともに、学内他組織への学内の研究動向の提供等の側方支援も担っている。

また、文部科学省平成30年度「オープンイノベーション機構の整備事業」への採択を受けて、令和元年7月に「京都大学オープンイノベーション（OI）機構」を設置した。同機構は、本学と企業の組織対組織の共同研究のほか、大型あるいは将来大型化が期待できる産学共同研究をマネジメントすることをミッションとしている。KURAが取り組む様々な研究力強化支援活動を通じて、産官学連携本部やOI機構等による産学連携支援活動との相乗効果によるイノベーション創発を目指している。

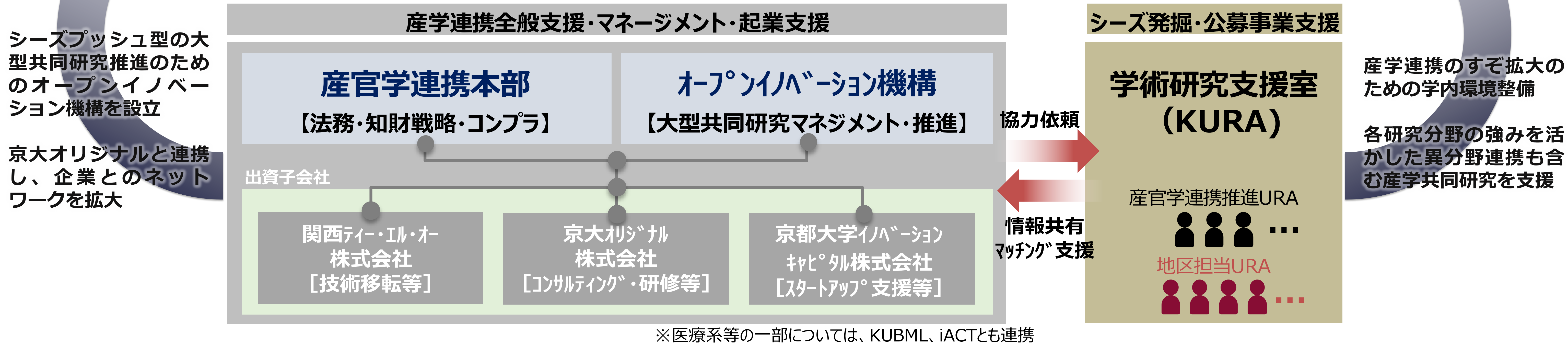


産学共同研究の大型化に課題

産学共同研究の一件当たりの平均受け入れ額は500万円程度であるが、中央値は100万円程度と依然として規模が小さいものが多いことが課題

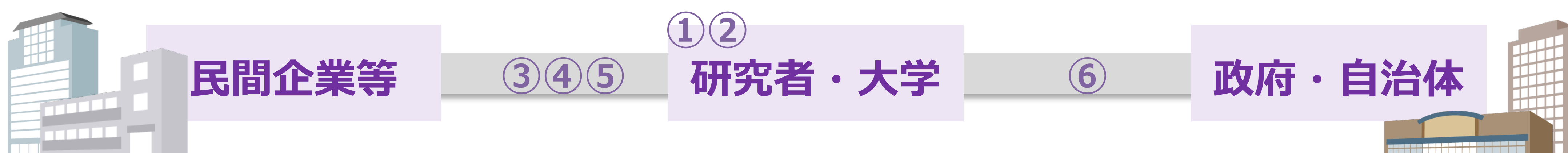
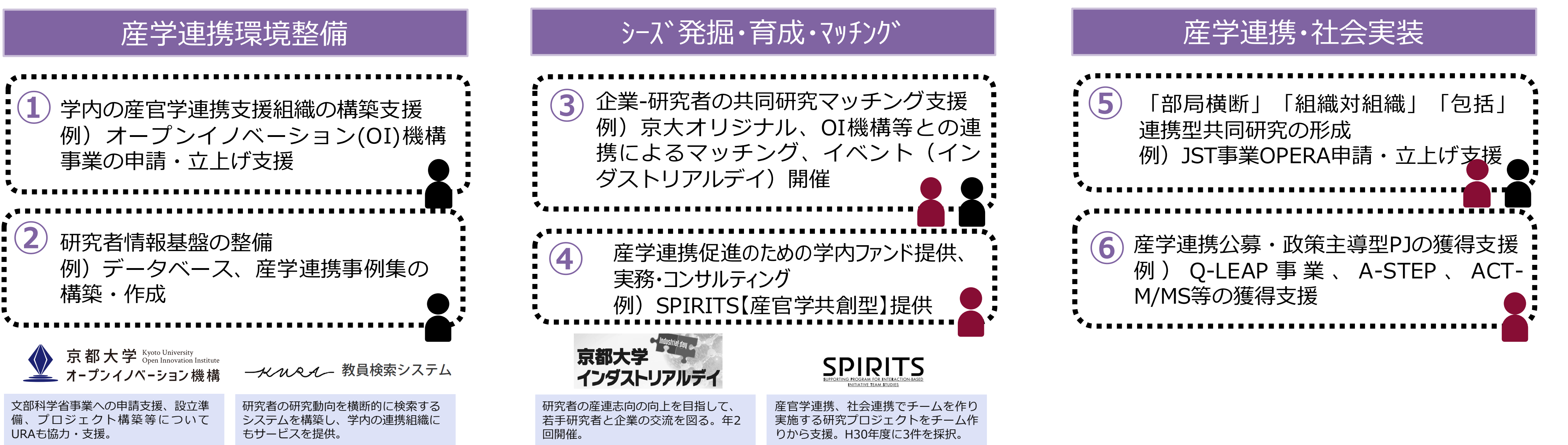
分野の強みを活かした産学連携従事研究者のすそ野拡大に課題

産学共同研究が特定の研究者に偏っており、若手研究者の参画、学内の異分野連携拡大に課題



URAの主な実績

URAは研究者に対して、産学連携に関する公的外部資金獲得を支援するとともに、産学連携の土壌形成のための学内ファンドを提供。また、産学連携関連組織からの協力依頼に応じて、学内研究シーズや共同研究情報等のデータベースを活用しつつ、研究者と民間企業・自治体等との産官学連携のマッチングを支援



効率的な産学連携支援のための研究シーズ・研究者情報の共有

研究者の伴奏支援を行うKURAと企業とのネットワーク構築を図る京大オリジナルが情報を集めつつ、産連本部、KUMBL等の学内の支援組織と情報共有することにより、共同研究構築の支援基盤を強化した。

大学財源安定化に向けた産学連携促進

産業界からの安定的な財源確保に向けて、公的資金による産官学連携プロジェクトから、競争領域における企業と大学間の本格的な大型産学連携に発展させるため、KURAとOI機構間での協力体制を構築し、連携をスタートした。

高度専門職人材の流動化

URAおよび産学連携支援者等の高度専門職人材の確保・育成およびキャリアパスの安定化に資する人材流動化を学内および出資子会社の間で推進。